

全体図② 「支援のステップ」

<p>スタート</p> <p>1</p>	<p>○ 支援者が困っているのか？ それとも、子ども(本人)が困っているのか？に気づく。</p> <p>困っているのはだれ？</p> 
<p>2</p>	<p>○ 支援者が気になる子どもの「行動の意味や背景」を捉えて支援策を考える。</p> <p>なぜだろう？</p> <p>行動の意味や背景</p> 
<p>3</p>	<p>○ 支援者が子どもの実態を「教育的ニーズ①②③」の視点でバランスよく整理する。</p>
<p>4</p>	<p>○ 支援者が子どもの実態を「教育的ニーズ①②③」の視点、さらに必要な視点を加えて整理する。</p> <p>支援者の子ども理解</p> <p>なりたい自分、できていること等</p> 
<p>5</p>	<p>○ 支援者が合理的配慮の基礎となる環境整備について考える。</p> 
<p>6</p>	<p>○ 支援者の子どもへの問いかけ・言葉がけについて振り返る。</p> <p>本人に聞いてみる</p> 
<p>7</p>	<p>○ 支援者が子ども理解の視点を「本人目線」で捉え直す。</p> <p>本人の自己理解</p> <p>本人目線</p> 
<p>8</p>	<p>○ 必要な視点について、支援者が本人との対話を通して具体的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分のつよみ」 ・「自分に必要なサポート」(合理的配慮) ・「自分の中心課題」(自立活動) ・「自分の行動の理由」 ・「なりたい自分」(将来の夢) など <p>ポジティブで具体的な言葉がけ</p> <p>対話しながら</p> 
<p>9 ゴール</p>	<p>○ 支援者(保護者)の子ども理解、本人の自己理解が深まる。 「自分には、○○といった困難なことがあっても、○○(支援)を受け、○○(学習・練習)することで、○○(なりたい自分・目標)できる」という理解 この「○○すればできる・分かる」を支援者、保護者と共有し引き継ぐ。</p> <p>「自分はこうすればできる」という自信をもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の評価、引継ぎ・活用につながる。 ○ 個別の教育支援計画、個別の指導計画が本人に役立つツールになる。